華蔵院

江戸時代（1603年～1867年）まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の12の寺院で生活し、修行を積んでいました。華蔵院は、現存する4つの寺院の1つです。華蔵院は、慈悲の仏である観音を含む、複数の神々を祀っています。堂内の祭壇に祀られている観音像は、山寺を建立した僧侶、円仁（794年～864年）作と言われています。寺院の外には、近くの岩肌に掘られた岩屋の中に、高さ2.5メートルの三重の塔があります。この塔は特徴的な朱色で塗られており、木製のひさしの軒は金箔を施した線條細工で飾られています。1519年に建設されたこの建物は、1952年に重要文化財に指定されました。この塔は、日本国内で最も小さい三重塔で、大日如来像が安置されています。